

群 教 セ	G01 - 04
	令5.284集
	国語 - 高

# 読解方法における気づきを蓄積し、 自らの学びに生かすことのできる生徒の育成

——メモの活用を通して——

特別研修員 齋藤 美和

## I 研究テーマ設定の理由

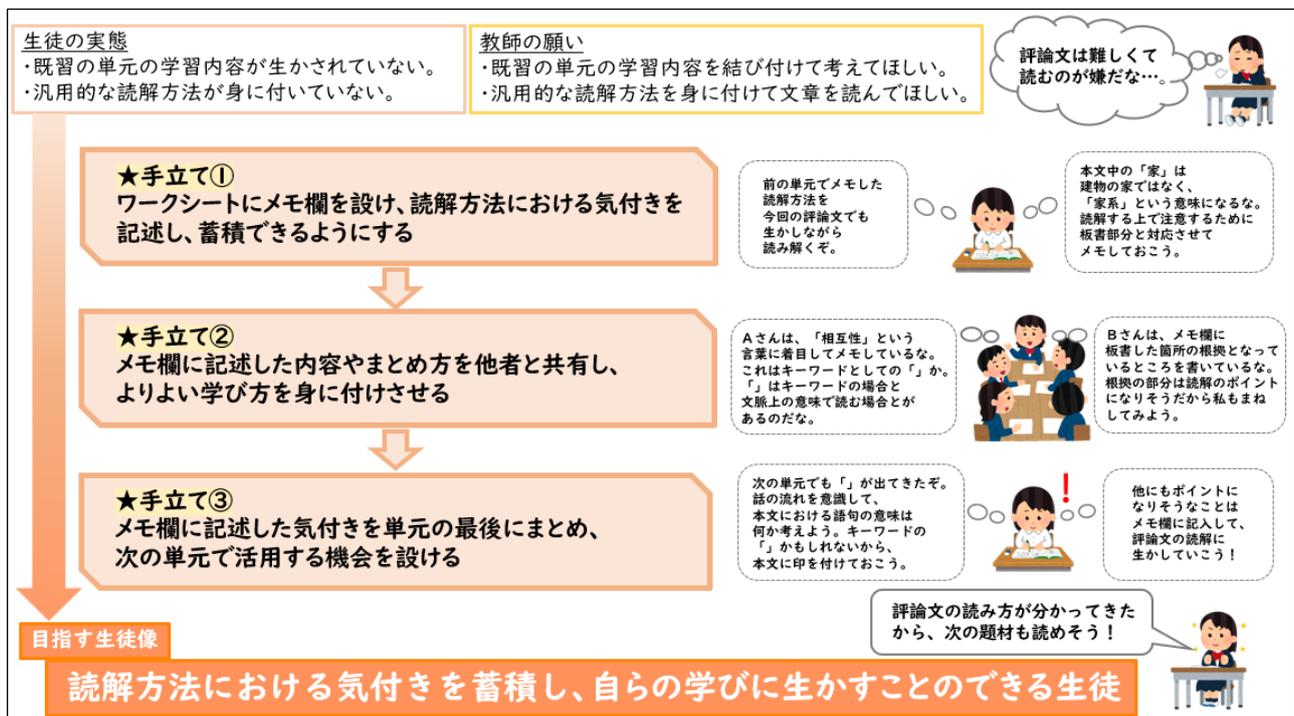
平成30年に告示された高等学校学習指導要領において、学ぶことに興味・関心をもち、見通しをもって粘り強く取り組みながら、自己の学習課題を振り返って効果的に学習目標を達成していこうとする「主体的な学び」を実現する必要があることが述べられている。

研究協力校では、授業内での活動が板書を書き写すだけになってしまう生徒も多く、主体的に学習する姿勢が身に付いていないことが課題となっている。また、授業の内容が1時間で完結してしまい、学習内容が次時の学習につながっていかないことや評論文の読解方法が身に付いていないため次の単元の読解に学習内容が生かされていないことがある。そうした背景には、教師が内容理解に重点を置くあまり、文章の読解方法を考えて整理する時間をとっていなかったり、学習方略を自発的に獲得するための手立てを示していなかったりすることで、学習内容の蓄積・活用が困難になっている状況があると考えられる。

そこで、学習の中での自らの気づきを蓄積し、自己の学習活動を振り返りながら、蓄積した気づきを整理・活用する手立てを取り入れていくことにした。メモの活用を通して、自らの気づきを可視化し、自覚化することにつなげていきたい。

## II 研究内容

### 1 研究構想図



## 2 授業改善に向けた手立て

生徒たちが学習方略を獲得し、見通しをもって次の学習へ主体的に臨むことができるようになるために、以下のような手立てを講じた。

### 手立て1 ワークシートにメモ欄を設け、読解方法における気付きを記述し蓄積できるようにする

毎時間のワークシートの下部にメモ欄を設け、メモ欄には文章を読解する際にポイントとなったことを記述し、蓄積できるようにする。メモ欄への記述を行うことで、自らの気付きを可視化し、自覚化させていく。

### 手立て2 メモ欄に記述した内容やまとめ方を他者と共有し、よりよい学び方を身に付けさせる

メモ欄に記述した内容やまとめ方を他者と共有することでよりよい学び方を身に付け、他者からの気付きを通してメモ欄への記述内容の質を向上させていく。

### 手立て3 メモ欄に記述した気付きを単元の最後にまとめ、次の単元で活用する機会を設ける

単元の最後にメモ欄に蓄積した気付きをまとめる作業を必ず行い、次の単元の導入において手立て3でまとめた読解方法を基に本文を読むことで、蓄積した読解の知識を活用し、身に付けさせていく。

## Ⅲ 研究のまとめ

### 1 成果

- ワークシートのメモ欄に読解方法における気付き等を自発的に記述するようになり、授業内の活動が板書を写すだけになってしまう生徒は減少した。
- メモ欄への記述を継続的に行ったことで、次第にメモのまとめ方も読解方法における気付きだけではなく、内容理解においてポイントとなる部分を記述したり、自分自身が分かりやすいようにイラストを用いたりするなど、自分なりの工夫をして気付きを蓄積する様子が見られた。
- 班内でメモ欄への記述内容を共有したことにより、最初はメモが取れなかった生徒もメモの取り方やまとめ方を他者から学んだことでよりよい学び方に気付くことができ、学習方略を獲得していた。また、Google Jamboardを使用してクラス全体で読解方法における気付きを共有・整理したことで、自らの気付きと他者の気付きとの共通点や相違点を発見し、読解方法に関わる知識を深めていた。
- 単元が終わるたびに読解方法のポイントをGoogle スプレッドシートにまとめることで、単元同士に共通する読解のポイントに気付くことができた。また、自分が文章を読解する際に具体的に注意する方法を考えたことで本文の読み方に変容が見られ、本文に出てくる接続詞やキーワードに印を付けたり、線を引いたりしながら本文を読解するようになった。

### 2 課題

- メモ欄に記述した内容を全体で共有する際、Google Jamboardは全体共有がしやすい利点はあったが、全員が入力できる状態にしてしまうと入力作業に集中してしまい、対話が活性化しなかった。入力者を一人に決めることで対話がスムーズに行われ、活性化すると考える。
- 振り返り作業を単元が終わるたびに行ったが、年度の後半になると読解方法についての新たな気付きは少なく、既習事項の確認作業に終始してしまうこともあった。今後もGoogle スプレッドシートへの蓄積を繰り返すことで、生徒たちの中で読解方法のポイントが定まってくることが予想できるため、蓄積した気付きをまとめてマニュアル化し、生徒が文章を読解する際の拠り所となるものにしていくことができると考える。

## 実践例

- 1 単元名 「要旨を把握して、それに対する考えを発表し合おう」  
 教材名 「世代間倫理としての環境倫理学」三省堂（第2学年・2学期）

### 2 本単元について

環境問題は現在だけの問題ではない。将来にも大きな影響を与える問題である。2015年には持続可能な開発目標（SDGs）が採択され、人々は未来を創るために現在と未来の関わりを考えるようになってきている。しかしながら、現在も地球温暖化・森林破壊・海洋汚染・オゾン層の破壊など、人類の存亡に関わる緊急の環境問題は数多く存在しているのが実態である。これに対して筆者は、環境倫理学の視点から論を展開し、環境問題の解決・改善に向けて「世代間倫理」の考えを導入し、現在世代は未来世代に対して生存権を保証する義務を負っていると主張する。

本題材の読解を通じて、次代を担う高校生が環境に対する深い認識をもち、将来に対する責任を自覚してほしい。そして、ものの見方・考え方に新たな視点を付け加えることが望まれる。現在を生きる私たちが未来世代のためにどれだけ自己犠牲を払えるか、倫理的な存在になり得るかということが問われる。現在世代の未来世代に対するエゴイズムの実相やまだ存在しない未来世代の生存権の保証という考え方を理解し、近現代人に欠落している「世代間倫理としての環境倫理学」について考えさせたい。

以上のような考えから、本単元では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	(1) 文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができる。 【知識及び技能】
	(2) 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしなが ら要旨を把握することができる。【思考力、判断力、表現力等】
	(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上 させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わ ろうとする。【学びに向かう力、人間性等】
評価 規 準	(1) 文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めている。 (知識・技能)
	(2) 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確 に捉え、論点を明確にしなが ら要旨を把握している。(思考・判断・表現)
	(3) 内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨を把握すること に向けて粘り強い取組を行う中で、意見交換等 をしながら自らの学習を調整しようとして (主体的に学習に取り組む態度)
過程	時間 主な学習活動
つかむ	第1時 ・倫理とは何かを確認した上で、環境倫理学の特徴を読み取り、筆者の問題提起 は何かを考える。
追究する	第2時 ・近代的な決定システムと封建的な決定システムの違いを読み取り、ワークシ ートの表にまとめる。
	第3時 ・進歩主義による現在世代から未来世代へのエゴイズムについて読み取り、ワー クシートにまとめる。
	第4時 ・成長イデオロギーによる未来世代へのエゴイズムについて読み取り、ワー クシートにまとめる。
まとめる	第5時 ・筆者の主張・提言を読み取り、ワークシートにまとめる。 ・「未来世代のために身の回りで環境問題に取り組んでいる例」について調べ、 自らの考えをワークシートに記述する。 ・記述した考えをグループで共有する。
	第6時 ・ワークシートのメモ欄に書きためたことをグループで共有し、Google Jamboard に入力してクラスで共有する。 ・Google Jamboardに挙げた意見を基に、評論文の読解において気を付けること や気を付けるための方法を考え、Google スプレッドシートに個人でまとめる。 ・Google スプレッドシートにまとめた内容を他者と意見交換する。

### 3 本時及び具体化した手立てについて

本時は全6時間計画の第6時に当たる。本時のねらいは、「ワークシートのメモ欄に書きためたことを基に、本教材の要旨を把握するための読解方法における気付きを整理することを通して、次の単元の学習へ見通しをもつ」ことである。達成するための手立ては以下のとおりである。

**手立て1 ワークシートのメモ欄に書きためた読解方法における気付きを振り返り、整理させる**

**手立て2 ワークシートにまとめたことを他者と共有し、よりよい学び方を身に付けさせる**

毎時間のワークシートのメモ欄に書きためたことをグループで共有し、Google Jamboardに入力した後、全体で共有する。

**手立て3 読解方法の気付きをまとめ、次の単元へ見通しをもって学習できるようにする**

次時以降の学習に生かせるように、評論文の読解において大事なポイントを個人でGoogle スプレッドシートにまとめ、今後読解する上で気を付けるための方法を具体的に考える。次時は、次単元の導入に当たるため、次時の最初に本時で考えた方法を実践しながら読解できるように次時の学習へつなげていく。

## 4 授業の実際

### (1) 導入

前時までの学習内容の振り返りを班内で行った。生徒たちは前時までのワークシートを用いながら、筆者の主張や前時で自らが考えた環境問題解決への取組を確認し合うことができていた。また、本時のめあてと流れについてICTを用いて共有を図ることで、本時の活動に見通しをもつことができていた。

### (2) 展開1

読解方法における気付きをワークシートに毎時間記述している様子が多くの生徒に見られた。Google Jamboardへの入力作業に集中している生徒が多く、対話する場面はやや少なかったが、時折自分のメモを班のメンバーに見せながら話し合っている様子が見受けられた(図1)。



生徒A「指示語の部分、何か気付いた？」

生徒B「私はメモ欄に何も書いていない…」

生徒C「(教科書を見せながら)『その責任』  
のところは問いになっていたよね」

生徒A「何ページ？」

生徒B「あ、やっぱりメモに記述してあった。  
指示語は前の行を見るって書いていた。  
たしかに、その部分も2行前に答えが  
書いてあるね」

生徒A「じゃあGoogle Jamboardに入力しよう」

図1 グループで話し合い、Google Jamboardに入力する様子

### (3) 展開2

Google Jamboardへの入力内容を全体で共有した。挙げられた読解方法のポイントとなる事項と本文との関係を発問しながら確認した。Google Jamboardを使用している読解方法の気付きのまとめは3回目になるため、付箋の記述内容やうなずきながら他の班の付箋を見る生徒の反応から、読解方法のポイントをつかめてきている様子がうかがえた。

#### (4) 展開3

展開2でGoogle Jamboardに挙げられた内容やこれまで蓄積してきた評論文を読解する際のポイントとなる事項をGoogle スプレッドシートに個人でまとめた。生徒たちは、今後、自分が評論文を読む際に自分にとって必要となる読解方法のポイントを取捨選択しながらまとめていた。また、具体的な注意方法を自分なりに考えることができていた(図2)。

	評論文の読解で気を付けること	具体的な注意方法
例	「しかし」、「だが」などの逆接の後は注意する。	逆接「しかし」、「だが」などは、▽で囲む。
1	「つまり」、「すなわち」のあとは大事	まるで囲む
2	中心文を探す	筆者の主張を探して線を引く
3	題名はキーワードになる	題名で使われている言葉が出てきたら目立つ色のペンで線を引く
4	本来の意味とは違う言葉に注意する	本来の言葉の意味を知るために意味調べをする
5	慣用語やことわざに慣れる	日頃から会話をするときに使ってみる
6	筆者の言いたいことを探す	～思う、私は～考えるというところを二重線で引く

図2 Google スプレッドシートの記述

#### (5) 終末

Google スプレッドシートにまとめた内容を自由に他者と意見交換する時間を設けた。参観者が多かったこともあり、他の班の生徒のところへ行っても意見交換をする生徒は少なかったが、隣席の生徒や同じ班の生徒とは作成したGoogle スプレッドシートを見せ合っていた。意見交換が終わった生徒は、自分のGoogle スプレッドシートを再度修正していた。意見交換によって生徒たちはよりよい学び方に気付き、他者からの気付きを自らのGoogle スプレッドシートに反映する姿が見られた。

#### (6) 次単元の様子

次の単元の導入で、本時の最後に考えた読解する上での注意方法を実践した。これまで教科書の本文に書き込みをする生徒は少なかったが、生徒たちは教科書の本文に線を引いたり接続語に印を付けたりするなどして、読解方法のポイントを意識しながら読むことができていた。

### 5 考察

メモ欄への記述は大多数の生徒ができていたため、話合いの場面でも班のメンバーとメモ欄の記述を見せ合いながらGoogle Jamboardへ入力していた。

Google Jamboardを用いての全体共有は、入力や共有のしやすさはあったが、思ったよりも対話が活性化しなかった。原因として、全員が入力できる状態にしてしまったため、入力作業に集中してしまっただけが考えられる。また、Google Jamboardへ入力する際に、「構造」や「接続語」など分野ごとにシートを分けたが、読解方法のポイントを分類分けすることが難しい生徒もいた。特に「語句」のシートについては、メモ欄の記述内容を読解方法のポイントとして文章化することが難しかったようで、分かりづらい記述が目立った。

一方で、まとめの作業については、これまでは紙媒体で読解方法のポイントを単元の最後にまとめていたが、Google スプレッドシートに変更したことによって見やすく、まとめやすくなった。紙媒体でワークシートに記述していた時よりも積極的に入力作業を行っていた。生徒は読解方法のポイントだけではなく、本文を読む際の具体的な注意方法を考えたことで、日頃、主体的に本文の読解に取り組んでいない生徒も、自分なりの注意方法を見いだすことができていた。次単元の導入で本文を読んだ際も、ほとんどの生徒が書き込みをしながら読む姿が見られ、本単元での学びを次の学習につなげる意識が芽生えたようだった。

その後のGoogle フォームによるアンケートにおいても、「自分が考えた注意方法を実践しながら読むことができたか」という問いに対して、「実践できた」と回答した生徒は94.9%に上った。また、自身の読解力の変化を感じている生徒は94.9%おり、「以前より注意深く文章を読むようになった」、「書き込みをしたことによって文章の構造が分かりやすくなった」等の感想が挙げられていた。このことから、読解方法における気付きを可視化し、自覚化させることは評論文の読解力の向上のために有効であったと考える。

